

支援者のみなさまへ



2月からピースウィンズ・ジャパン(PWJ)の新しい年度が始まりました。1996年2月に設立されたPWJの活動は、多くの皆さまに支えられ、13年目を迎えることができました。日ごろのご支援、本当にありがとうございます。2007年は、前年に開始したアフリカ・スーダンでの活動を強化したほか、危機のなかにあるイラクやアフガニスタンでの活動継続も決断しました。また、「すべての人に水を」を合言葉に掲げた「ピースウォーターキャンペーン」には多くの方からご賛同をいただきました。今年も支援を必要としている多くの難民・被災者の方に支援を届けられるよう、スタッフ一同、努力を続けます。変わらぬご理解・ご協力をお願いいたします。

ピースウィンズ・ジャパン統括責任者 大西健丞

ピースウィンズ・ショップから

「シンプルけどおしゃれで使いやすい」がコンセプトのPWJオリジナルエコバッグがご好評をいただいています。カラーも選べる6色! また、品切が続いていたPWJオリジナルカフェタンブラーも再入荷いたしました。どちらもエコ生活につながるのギフトにも最適です。もちろん定番のピースコーヒーも好評発売中。

http://www.peace-winds.org/shop/
電話 0120-252-176(フリーダイヤル) 03-5304-7493



ご不要になった本、CD、DVD、ビデオ、ゲームなどをブックオフに買い取っていただき、買取代金をPWJの国際支援活動に役立てていただく「ブックキフ」が反響を呼んでいます。2007年12月に朝日新聞で紹介され、支援の輪がさらに大きくなりました。引越しなどの際にもぜひご検討ください(ブックオフではお手続きができませんので、必ずPWJへご連絡ください)。

ブックキフをはじめとする寄付、サポーター登録など各種のお申し込み、お問い合わせ、住所変更などは、下記の連絡先へ。インターネット(ウェブ)からもお手続きいただけます。

電話 0120-252-176(フリーダイヤル)
03-5304-7492

ウェブ
www.peace-winds.org

支援者サービスの窓

peace winds
J A P A N

支援のプロを、
世界の現場へ

アフリカから 始めよう

現地の人と一緒にソルガム(コウリヤン)の甘い莖を口にするPWJ西野(スーダン)

国内活動2007

中越沖地震

7月16日の地震発生直後にスタッフを現地に派遣。避難所への断熱板の配布や、簡易更衣室の設置を行いました。家財道具の一時保管場所として柏崎市西山町五日市地区に提供したユニットハウスの支援は継続中で、12月に開かれた「復興への集い」にはPWJスタッフも参加しました。現在は同市内の福祉施設の修復支援を行っています。



尾道事務所



新たな支援者を募り、活動基盤をいっそう強化することを主な目的に、広島県尾道市に11月、国内では初めての地方拠点となる尾道事務所を開設しました。事務所の開設は地元メディアで大きく伝えられ、学校などからの講演依頼や、地域・学校単位での支援の動きも増えています。12月には同市内で活動報告会も開催しました。

音楽親善大使

より多くの人に共感の輪を広げていくことをめざし、平和の大切さを訴えるメッセージ性の強い歌を発表しているシンガーソングライターの廻田彩夏さん(大学1年生、神奈川県在住)がPWJの「音楽親善大使」に就任しました。廻田さんは柏崎市・五日市地区の「復興への集い」にも参加。自作の歌で被災者たちに感動を与えてくれました。



2008年は「アフリカの年」

水、貧困、難民、戦争…。何とかしなければならぬ課題の多くがアフリカに噴き出しているようにみえます。しかし、そんな現場で活動を続けるピースウィンズ・ジャパン(PWJ)のスタッフからは、「困難な状況にあっても、人びとは未来を信じて、子どもたちや家族のために前向きに歩いています」(リベリア駐在・三浦真穂)と報告が届きます。現状は厳しくても、必ず解決の道はあります。そして、アフリカから問題解決の糸口が見出せれば、世界各地で噴き出さるこうした問題の解決がみえてくるはず

です。日本で生まれたPWJは1996年の設立以来、イラクやアフガニスタンなどアジアや中東の紛争地・被災地での支援に力を

入れてきました。その一方、設立翌年の1997年初めにルワンダに調査チームを派遣するなど常にアフリカ支援を意識してきました。

2001年、PWJとしてはアフリカで初めての支援地となるシエラレオネで活動を開始し、その後、リベリアやスーダンに活動を拡大。PWJのアフリカ支援は、国連から本格的な難民キャンプの運営を任されるなど、日本のNGOとしては最大規模のものとなりました。

2008年は、アフリカ支援が重要テーマとなる各種の国際会議が日本で開かれます。日本がアフリカ支援のカギを握る今年、PWJは重点目標にアフリカを掲げます。合言葉は「アフリカから始めよう」。あなたもぜひ、この取り組みと一緒に参加してください。

アジア・中東からアフリカへ —ピースウィンズ・ジャパンの活動—

スーダン(2006年～)

20年以上続いた南北内戦が終結して難民の帰還が動き出したスーダン南部で PWJ は 2006 年、井戸の建設や衛生事業を柱とした支援事業を開始しました。道路状況も劣悪で資機材の輸送も難しく、技術を持った組織や業者もないなか、ジョングレイ州内で、2007年の雨期入りまでに38本の井戸を建設。2008年終わりまでにさらに約60本を建設する予定で、州内で活動する NGO のなかでは最大規模の井戸本数となっています。井戸を引き渡したコミュニティに対しては、井戸の維持や修理に関するワークショップ

(研修)を実施しているほか、トイレの建設も進めています。こうした支援により帰還した人の生活を支えるだけでなく、帰還を促進することも期待されています。

※協力団体：ジャパン・プラットフォーム、国連難民高等弁務官事務所、月刊タウン情報トクシマ、リコー社会貢献クラブ・Freewill、毎日新聞社会事業団

できあがった井戸の掃除をする子どもたち

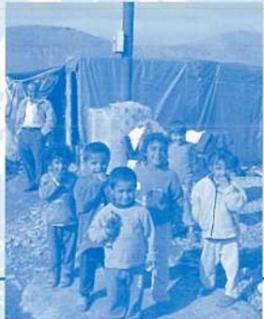


イラク(1996年～)

設立時からの支援地であるイラクでは 2007 年、治安回復の進まない中部や南部から北部に逃れて来た国内避難民に対する支援に力を入れました。アラブ系避難民の子どもたちのためアラビア語での授業を行う唯一の小中学校を改修・増築し、机やイスなどを提供。家族の収入向上を図るため、建設と美容(整髪)の技術訓練を行いました。越冬支援として、キャンプ内の排水設備の整備やテントの土台設置を行い、状況の厳しい家庭には灯油を配布しました。保健医療体制の強化のため 9 カ所の診療所の建設や増改築を進めたほか、化学兵器による被害が深刻なハラブジャでは 2008 年春の着工をめざして母子病院建設事業を開始しました。

※協力団体：国際移住機関、国連開発計画、国連難民高等弁務官事務所、国連児童基金、東京マイコーブ

国内避難民キャンプの子どもたち



アフガニスタン(2001年～)

2007 年は、国際 NGO のスタッフ殺害事件やデモなど、サリプル州を含む北部地域でも治安の悪化がみられましたが、安全対策の強化や事業の一時的な休止などの対応をとって活動を続行しました。水関連の事業では、飲料水・生活用水のための貯水槽 5 基を建設。サリプル川流域の水資源調査では、観測網の維持とデータ回収作業を継続し、調査をもとにした水資源の有効活用をめざして現地政府の水・エネルギー省との協議を始めました。地域総合開発をめざした支援では、女性センターでの刺繍・洋裁・識字研修事業や、種苗圃場(ほじょう)整備、スイカ・トウモロコシの種子の配布などを行い、これらの事業を完了しました。今後は水資源調査事業を重点的に進めていきます。

※協力団体：外務省、毎日新聞社会事業団、アフガンの子どもたちに美味しいものをこころする会、ECナビ、有隣堂

川の水量を計測する PWJ 見島(左)ら



モンゴル(1996年～)

草原火災支援をきっかけに開始した活動は、市場主義経済への移行のなかで生まれた「ストリートチルドレン」や貧困世帯の子どもたちを支援する保護施設「ホットイル」の運営へ移行し、教育支援にも広がりました。ホットイルの運営は 2006 年に終了しましたが、家庭に戻れなかった子どもたちは「ベルビスト・ケアセンター」に引き取られ、PWJ はその子どもたちの支援を続けています。2007 年初めに 12 人いた支援対象の子どもうち 4 人は家族に引き取られ、2008 年 1 月現在、8 人がセンターで生活を続けています。

ベルビスト・ケアセンターで支援を受ける子どもたち



シエラレオネ(2001～2007年)

アフリカでの最初の事業地となったシエラレオネ。2001年の事業開始当初は、シエラレオネの内戦のためにキャンプで生活していた国内避難民が支援の対象でしたが、隣国リベリアの内戦の激化でキャンプにリベリア難民を受け入れることになりました。PWJ は日本の NGO として初めてアフリカで大規模なキャンプの運営を任せられ、最大時 3 カ所、計約 15000 人の難民の生命と日常を支えました。一方、国内避難民が帰還した村では簡易水道や井戸の建設、教育支援を行いました。

リベリア難民の帰還が進んだ結果、残った難民の支援がシエラレオネ政府系の団体に引き継がれることになったため、シエラレオネでの事業は 2007 年 3 月までにすべて終了しました。

上空からみたシミールバクボ難民キャンプ



リベリア(2004年～)

リベリアでの支援活動は、2001年から2007年まで実施したリベリアの隣国シエラレオネでの難民支援活動をきっかけに、2004年に開始しました。帰還民の一時滞在施設の運営と並行して、井戸の建設や住居再建資材の配布、学校再建を支援しました。2007年度は、ロファ、ボミの2州で、計1000世帯の住居支援を行ったほか、井戸33本、トイレ91基を建設。教育関連では、国立高等専門学校の再建や小学校校舎、教員用宿舎の建設を行ったほか、帰還した子どもたちが通う学校に、学校給食のための食糧を提供しました。

※協力団体：外務省、国連難民高等弁務官事務所、国連世界食糧計画、海外地下水開発協会、月刊タウン情報トクシマ

完成した教員用宿舎のテープカット



ルワンダ(1997年=現地調査)

1994年に全人口の約1割にもあたる80～100万人の人が虐殺されたルワンダ。その後成立した政府が国民融和・和解を進めましたが、多くの人たちが現地の状況を憂慮し続けました。PWJ は設立から1年もたない1997年1月、帰還難民の支援も想定して現地にスタッフを派遣し、調査や関係者との協議を行いました。

東ティモール(1999年～)

独立の賛否を問う住民投票後に混乱が起きた1999年以来、PWJ が支援を続ける東ティモール。復興プロセスが進むなかで起きた2006年の危機では国内避難民が発生し、コーヒー生産者支援事業と並行して、緊急支援事業を開始しました。2007年は避難民キャンプでの物資配給を縮小する一方、NGO 国際平和協力センター(IPAC)と協働して、和解のための対話促進事業やキャンプでのトラウマ調査などを実施し、高い評価を得ました。中核のコーヒー事業では、生産者組合の現地政府への登録が完了し、初めて組合名でコーヒーを出荷。2006年に組織した女性グループが活発化し、輸出規格外のコーヒーを地元で販売したほか、公文教育研究会との提携による四則演算教室を開講しました。

※協力団体：ジャパン・プラットフォーム、国際協力機構、フェリスモ、アサップネットワーク、三菱電機労連

四則演算教室で学ぶコーヒー生産者の女性たち



2008年は「アフリカの年」

日本で今年開催されるアフリカ関連の重要会議

- ・第10回アフリカパートナーシップフォーラム <4月7～8日、東京>
2003年のエビアン(フランス)サミット議長総括に基づいて発足し、年に2回開かれているアフリカ開発に関する国際的フォーラム。
- ・第4回アフリカ開発会議(TICAD IV) <5月28～30日、横浜>
日本が国連、世界銀行と共同で開催する、アフリカ開発をテーマとする国際会議。約40カ国が参加し、元首級も多数出席する予定。北海道洞爺湖サミットの関連会合とも位置づけられている。
- ・北海道洞爺湖サミット <7月7～9日、北海道>
日、米、英、仏、独、伊、加、露8か国の首脳とEUの委員長が参加。第4回アフリカ開発会議の成果をつなぐとともに、2015年までのミレニアム開発目標(MDGs)達成に向けたメッセージを出すことが主要テーマとなっている。

関連サイト TNnet (TICAD IV-NGO ネットワーク) ~PWJ も参加しています
<http://www.ticad-csf.net/TNnet/>

ピースウォーターキャンペーン

2007年、PWJ は「すべての人に水を」をテーマに、水に関連する支援を重視して、「ピースウォーターキャンペーン」を開始しました。紛争終結直後のリベリアやスーダンでの井戸建設、イラクや東ティモールでの水道関連施設・設備の整備などを実施。長く水不足に苦しむそのために避難民も発生しているアフガニスタンでは貯水槽建設という対症療法的な対策にとどまらず、今後の有効な水利用のために水資源調査を進めています。水問題や水から派生する衛生問題、環境問題がクローズアップされるなか、このキャンペーンは大きな反響を呼びました。PWJ は今後もピースウォーターキャンペーンを継続します。なお、賛同のご寄付は、水をはじめとする世界各地での支援活動のために使用させていただきます。